

(別紙様式)

金沢市立西小学校

〔はじめに〕

本校は、金沢市街地の西側に位置し、昭和59年戸板小、鞍月小、諸江町小の各通学区域の一部を変更して開校した。全校児童は354名、教職員は26名である。

この地域には、古く江戸時代の「天保義民」の話が伝承されており、地元住民の誇りになっている。また、学校の隣には、世界創造都市金沢が姉妹提携している、海外7都市の庭園を集めた「姉妹都市公園」がある。本校は、いわば、過去と未来が交差する地にあると言える。

2010年度、ユネスコスクールの認定を受け、地域の「人」「自然」「社会」とのつながりを通して、持続発展教育の実践に取り組んでいる。

温故知新☆☆☆かかわりあって

～未来につなげよう！ 社会に生きる「人」、「自然」への思いやり～

1 ユネスコスクールとしての取組

本校は、これまでの生活科や総合的な学習の取り組みを持続可能な社会の構築の視点から見直して、児童につけたい力や目指す姿を明確化し、他教科との関連を図りながら持続発展教育に取り組んでいる。

各学年のテーマについては、以下のようになっている。

- | | | |
|-----|-----------------|-------------------------|
| 1年生 | とびだせあそびたいプロジェクト | 「なかよし いっぱい 大作戦」 |
| 2年生 | 西っ子たんけんプロジェクト | 「西っ子 おもしろ 町たんけん」 |
| 3年生 | 地域発見プロジェクト | 「人とともに みんなとともに」 |
| 4年生 | 地域環境プロジェクト | 「見直そう！西小校区を流れる鞍月用水」 |
| 5年生 | 食でつながる西小プロジェクト | 「つなげよう！わたしたちと世界」 |
| 6年生 | 生き方向上プロジェクト | 「金沢から発信しよう！天保義民から考えよう！」 |

【3年生：人とともに みんなとともに】

地域のボランティアグループや高齢者体験、車いす体験を通して学んだことを介護施設訪問でのお年寄りとの交流に生かす活動に取り組んでいる。

〔児童の変容〕

- ・校区のボランティア団体の人との交流や高齢者体験を通してお年寄りとの交流の際、自分たちができることについて考えた。
- ・介護施設訪問を継続して行うことで、よりよい交流方法について考え、改善していけるようになった。



介護施設でお年寄りとの交流を深める

【4年生：見直そう！西小校区を流れる鞍月用水】

西小学校の校区を流れる鞍月用水を見学したり、地域の農家の方に用水の使い方について話を聞かせていただいたりする中で、その気づきから学習を広げ、用水の昔・現在・未来に目を向けて学習を進めている。

〔児童の変容〕

- ・用水と自分達の生活につながりがあることが分かり、大切にしていこうという意識が高まった。
- ・用水を見学して気づいたことをもとに用水の環境に目を向け、自分たちができることを考えようとする事ができた。



地域の方から用水について学ぶ

【5年生：つなげよう！わたしたちと世界】

地域の農家の方の協力での米作りや加賀野菜作りをした。アートマイルプロジェクトで、台湾の文雅小学校とテーマを決め、各クラス1つの絵を描いた。さらに詳しく世界について知るため、テーマを決め調べ学習をし、まとめて発表した。

〔児童の変容〕

- ・米や加賀野菜を実際に育てたり調べたりしたこと、アートマイルプロジェクトを通して興味を持った世界について調べたこと等を通して、金沢や日本の食について再発見したり多面的な見方をしたりすることができた。



文雅小とスカイプで絵の相談

【6年生：金沢から発信しよう！天保義民から考えよう！】

地元住民の誇りである「天保義民」の生き様を知るために、小説「天保の人々」を読破し、五箇山にも見学に行った。そして、その経験を活かし、劇で発信した。また、金沢の伝統的・近代的な場所・もの・それを支える人々の考え方を各自が取材等で知ることができ、それらをヒントに自分の生き方について考えた。

〔児童の変容〕

- ・地域に残る歴史を学ぶことで、社会科で学ぶ歴史と重ねながら、西念の人々の生き方や思いを身近に感じ、地域をより大切にしようとする気持ちを持つことができた。
- ・金沢の伝統的または近代的な場所で働く人たちの思いを知り、これからの生き方について考えを持つことができた。



五箇山での暮らしぶりを学ぶ

2 成果と課題

(1) ESD を学ぶ研修会

年度当初に、金沢大学教授の鈴木克徳氏をお招きして、これまでの実践から、一年間探究していける学習内容になるように、4学年のカリキュラムを例にグループ討論会を行った。また、それを基に、探究的な学習の在り方についても教えていただいた。今年度も、各学年の重点を明確にすることや異学年との交流も重要視させ、ESDの視点を全教職員で確認し実践に生かすことができた。

(2) 台湾文雅小学校との交流

今年度5年目となる台湾文雅小学校との交流は、これまでとは違い、各クラスに一人の児童が入り、一日交流するという形をとった。昨年の台湾訪問のことも思い出しながら、言葉が通じなくても伝えようという気持ちがあれば伝わるということを子ども達は学んだようだ。しかし、児童への負担、教職員の負担を考えると、今後の交流の在り方を考えていく必要がある。

(3) 学びの発信とネットワーク作り

今年度も、学年の発達段階に応じてそれぞれの方法で発信し合った。全校児童や1つ下の学年、園児たち、保護者や地域の方々、さらにはお世話になった方々を対象に様々な形態で発信することで、学びをまとめたり表現力を高めたりすることができた。発信した内容を学習することで、次学年への期待感も持てるようになった。

また、今年度は、近隣の小学校との交流は難しかったが、文雅小学校とアートマイルで交流することができた。来年度はさらに「持続発展的」で「協同的な」学びになるよう、学習課題を改善していきたい。

(4) カリキュラム

4月のカリキュラム見直しを経て、今回4年生のテーマが昨年度から変更したので、今後も、地域の良さを充分生かしたカリキュラムを意識して、他学年のカリキュラム見直しもしていきたい。また、児童に付けたい力を明確にし、内容を精選することでカリキュラムをより充実させる。さらに、ESDカレンダーに加除・修正を行うことで、様々な活動でESDの考えを取り入れていく。